

## 第24期学友会執行委員会

# 執行委員長

執行委員長 平田 智洋

プロフィール

商学部経済学科4回生  
広島県立府中高等学校  
レスリング部  
熱狂的カープファン



新入生諸君、御入学おめでとうございます。苛酷な受験戦争を勝ちぬぎ、この広島修道大学に入学できたことは我々にとっても慶びに耐えません。

現在、膨大な数にのぼる大学数。高校卒業後は大学進学が通例となっている今日、義務教育の延長的な大学も少なくはない。専門的知識の拡充、個々の自由な研究等、大学本来のあるべき姿を失った大学。この中に修道大学は含まれてはいまいか？新入生諸君は外観、カリキュラムの名目など表面的なことのみで修道大学を進学対象校としてはいなかっただろうか？

入学したが夢にみていた大学像と大きく違う様では必然的に研究意欲の低下にもつながる。果たして広島修道大学が本当に真の大学といえるかどうか次第にわかってくることだろう。もし相違があれば改革してゆかねばならない。諸君が今後その先導者となる可能性もありうるのである。受験時の意欲が大学に於ても増々発揮されることを祈る。

大学という所は数々の場を与えられる。学問探究はもちろん、サークルという場もある。日々の活動の中から生まれる“心身鍛錬”“人間性の向上”を育成していく所であり、人と人とのふれあい、憩いの場所的な要素も含んでいると考える。

共に汗を流し、涙を流してつちかかってきた物が将来の糧となることは明白である。

社会に出る前の大学4年間はある種の猶予期間とも言えるのではないだろうか。この一生一度の4年間、無駄に過ごすことはない。サークル活動するのもよし、バイトに明け暮れるのもよいだろう。一つの信念を持ち大学生活を有意義なものとして欲しい。

前途多難な日々ではあろうと思うが苦しみ、苦しみの中から喜びをみつけ諸君各々の道を歩むべきである。

この道より 我を生かす道なし  
この道を歩く。

この詩を諸君に贈り、かつ諸君の前進に声援を送る。



執行委員会の顔ぶれ

# 書 記 局

書記局長 上 甲 力

プロフィール

商学部管理科学科4回生  
修道高校卒  
美術部



私の好きな言葉に、“運命は性格なり”という言葉と、“さよならだけが人生さ”という言葉があります。色々な人に出会いそして必ずさよならがやってきます。だからこそ、さよならを言うまでの過程を大切にしたいのです。そして必ず大学にもさよならをする時があります。大学に入って何をしたか？何を得たか？という問に対して答えられる人はほとんどいないのです。それほど漠然と大学生活を過ごし、また取るに足らない事ぐらいしかやっていない人が多いのです。学生と名のつく最後の場で、何をやる事ができるか。これは、個人個人の性格が決めてくれるものだと思います。

何が正しくて、何が悪いのか、その価値判断は曖昧であるから、自分が正しいと信じた道を正直に進むのが重要です。そんな中で自分を大切にしてくれ、ゆっくりと進む事。けっして、大学というところでは、他人は何も与えてくれません。また、大人のつき合い、つまり責任あるつき合いをするところです。だから、自分で道を探して進み、最後までその責任を負えるからこそ自分の信じた道を進めるのです。

中途半端なことをしていれば、やはり中途半端な結論しか出ないと思います。

大学において、私は多くの友人を得ました。それは、自分にとって大きな財産と同時に、自分自身を探るよき反射板でした。大学とはそんな悪友を見つけるよき場でありました、自分とは何かを探るよき場です。

最後に、これからの4年間というものは、とても楽しくまたとても苦しい時間です。苦しみが大きければ大きいほど、また楽しみも大きなものです。

そんな中から色々な物を得てください。それもまた大学というものの一面だと私は思います。



局員 阿部 智子(法4)  
小田 和敏(商4)  
原 由美子(商4)  
沖 晃子(人3)

# 会 計 局

会計局長 雨 田 敏 行 (20才)  
プロフィール

商学部商業学科2回生  
ミステリィクラブ所属



新入生のみなさん、御入学おめでとうございます。入学された今、大学はあなたの期待した通りの所だったでしょうか。大学というものに、疑問を持ちながらの受験生だったのではないのでしょうか？大学での授業は中学までの義務教育や高校のように、与えられるものではなく自主的に出るものであり、同じように最後の学生生活を送る場としても、自分から何かをしなければ“大学はなんてつまらない所だろう”ということになりかねません。大学なんてたったの4年間です。この4年間バカになりきって遊びまくっても、いいんじゃないですか。勉強するだけが学生じゃない。でも単位は取らないといけないけど。でも、何か起きることを待っているだけでは、何も起きないでしょう。自分から働きかけ、“わいはアホなんで——”という開き直りと、“もうどうでもええわい”という破滅型精神を、少しだけ持ち、機会あるごとに、サークル他学校内行事に参加してみてください。家と学校の往復よりも、もっと楽しいはずですよ。

あの——それから、会計局からのお願いなんですけど、是非とも会計局に入っていたきたいんですけど。よろしくお願いします。

記帳に賭ける青春、きみも会計局で記帳に青春を燃やしてみないか！！



次長 桑 原 麻由美(人3)  
局員 原 田 美 幸(商3)

# 文化局

文化局長 向井浩三  
プロフィール

商学部4回生  
出身地 三原



疲れ果れた身体をだまし ただ鳥のように翔ぶさ  
風に乗り 雲をつきぬけ 自由を夢見て めざして  
大きく はばたく

いま 現代に生きる俺たちに 星は進路を指してくれる  
夜の海 誰かが高く 燈火を 生命をともしてくれる  
悲しげに 高く

明日はどこへ行こう 明日はどこへ行こう

いま夕陽に翼ぬらし 俺は帰るのさ  
お前というあたたかな港に たどり着くまで

俺の海に翼ひろげ 俺は滑り出す  
お前というあたたかな港に たどり着くまで

(甲斐バンド「翼あるもの」より)

新入生諸君!! 初志貫徹!! 希望を捨ててはいけない。君達には計り知れない未来があるのだ。そのすばらしい未来の為に現在を大切にしたい。現在を燃焼するのだ。大学4年間なんて、まばたきする間に過ぎてしまう。サークル打ち込むのもいい、勉強に熱中するのもいいだろう。

「私は大学生生活〇〇〇をやったんだ」と、将来自分の息子や娘に誇れる現在を創造して欲しい。

新入生諸君!

大いなる期待を君達に送ろう。

次長 河野 治(人4)  
吉本 宏(法4)  
局員 新谷 秀明(法3)  
光田 菜穂子(法2)



# 体 育 局

体育局長 平 田 誠 治

プロフィール

法学部法律学科4回生  
少林寺拳法部  
広島県広島基町高校出身



新入生のみなさん、ようこそ広島修道大学へ、御入学、心より御祝い申し上げます。

今、受験戦線をのりこえた皆さんは、いろんなことを考えていることでしょう。しかし、大学4年間でいかに有意義に送るかは、皆さんの行動何如にかかっています。そして、その方法としてサークル活動があるわけです。

現在修道大学体育局加盟サークルは、部、同好会、クラブをあわせて42サークルあり、主将を中心として肉体を鍛え、精神を磨き、そして、勝利を目指し、人間完成を志して、日々練習に励んでいます。

大学生活をどのように過ごすかは、各個人の自由です。しかし、人生のほんのわずかの4年間のあなたの生活が、今後の人生を左右するといっても過言ではないでしょう。サークル活動に参加することで、大学4年間で、充実したものとなることを約束します。

「やる気」さえあれば、上手下手なんて関係ありません。「自分には、ちょっと……」などと躊躇せず、まず行動してみることです。必ず、あなたのためのサークルがあるはずですよ。



次長 岡 田 祥 昌(法4)  
追 貢(法4)  
本部 作 田 瑞 穂(法4)  
局員 河 本 雅 夫(法2)

# 厚生局

厚生局長 辰川 浩

プロフィール

人文学部人間関係学科 4 回生  
安古市高校卒  
天文研究会



「最近の大学には魅力がない」等と言っている人、本当にそう言えるのでしょうか。魅力をなくしているのは学生自身ではないですか？刹那刹那に生きてきた私達。あなた方は今、大学受験の後の刹那が終わったところだと思います。（そうでない方もいるでしょうが。）その結果、五月病などというものに煩らわされている人もいらっしゃる。そんな被害妄想はいいかげんにしてもらいたい。五月病に病む人間は今だに乳離れができないんじゃないのかな。所詮、人生は楽しいことより苦しいことが多いもの。だから刹那のために苦しさをこらえて生活しているのだ。

大学生活はそういった意味では、その刹那が最も多く味わうことができる時間だと思う。そして、その刹那が卒業後の将来において大きな影響を与えるのではないのでしょうか。生き甲斐だの、人生の喜び（喜びではない）などというものは、死ぬ間際になってから感じるもの。そういったことを追求した人々は名著こそ残していても、彼ら自身の人生は苦闘そのものでした。だから私は、あなた方に憧れにおぼれなくて欲しいと願っている。「大学」という保護の中で好きな経験をしてもらいたい。

どうせなら非常識の領域の中から非常識を行ない、それをいかにして常識の領域に定着させるかといったことを身につけてもらうことができれば最高だろう。それは何一つ力のない私達が生き甲斐を見いだす一つの手段でもあろうし、何よりも、自分自身の飛翔につながるだろうから。

それには数多くの経験、失敗を繰り返し、試行錯誤の中から一步一步前進してもらいたい。その地盤固めとして自分の足もとを見て欲しい、何をすることもまず家庭があり、理解し合える友人が必要であるから。



次長 今井 恭伸(商4)  
林 洋(人4)  
局員 中村 知子(人2)